

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和3年(2021年)

8-9月号

(通巻 195号)

2021年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

キツネノカミソリ

真夏の雑木林で出会うオレンジ色の花には、少し意表を突かれたような驚きがあります。ヒガンバナのなかまです。

P1 ☀️ いきもの写真館
キツネノカミソリ

P2 ☀️ 市川市内の絶滅危惧種
— 昆虫 —
/ 4

P5 ☀️ いちかわの植物 30年
ノカラマツ
フジバカマ

P6 ☀️ くすのきのあるバス通りから
ハスの花とご近所の動物

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
今年のイモムシ

P7 ☀️ わたしの観察ノート
5~6月の記録

P8 ☀️ ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。

市川市内の絶滅危惧種

－昆虫－

レッドリストは、絶滅のおそれのある野生生物をリストアップしたものです。新しく環境省より「環境省レッドリスト 2020」が公表されていますので、そのリストから市川市域に生育・生息する種類を抽出してご紹介します。第3回は昆虫です。

(絶滅危惧の度合いの表記は、ローマ数字を算用数字に置き換えています)

昆虫は、生息状況を把握するのが難しい生き物です。体が小さく目立たない上に、空を飛び草むらや林に隠れ、土や水に潜ります。一年中、成虫がいるわけでもありません。種類も多く、見わけには専門知識が必要です。したがって、さまざまな昆虫について市川市域での生息状況を全体的かつ継続的に把握するのは困難です。個体群として把握しようとするとなおさらです。発表されている記録や単発的な観察から、全体像を推測していくしかありません。

ここではまず「環境省レッドリスト2020」にリストアップされた昆虫の中から、「市川市史自然編」の目録に記載されている種類を選び出します。ベッコウトンボやオオウラギンヒョウモンなど、明らかに市川市域から姿を消した種類も含まれますが、選び出されたすべての種類について現在の生息の有無を判断する力量が当館にはありません。そこで、機械的に抽出・列挙し、解説可能ないくつかの種類について紹介しておきます。

ただ、都市化が進んだ市川市域において残されたわずかな自然環境を保全することが、結果的に貴重な種の保全につながる可能性があることは述べておきたいと思えます。

「環境省レッドリスト2020」掲載種

●絶滅危惧1A類 (CR)

ベッコウトンボ
アオヘリアオゴミムシ
オオウラギンヒョウモン

●絶滅危惧1B類 (EN)

ヒヌマイトトンボ
オオセスジイトトンボ
オオモノサシトンボ
オオキトンボ
キイロホソゴミムシ
コハンミョウモドキ
シジミガムシ
ヨツボシカミキリ
ツマグロキチョウ
シルビアシジミ

●絶滅危惧2類 (VU)

ナゴヤサナエ
ギョウトクコミズギワゴミムシ
アサカミキリ
ニッポンハナダカバチ
ウラギンスジヒョウモン
ガマヨトウ
キスジウスキヨトウ
ギンモンアカヨトウ
イチモジヒメヨトウ

●準絶滅危惧 (NT)

ベニイトトンボ
モートンイトトンボ
キイロサナエ
マダラヤンマ
ネアカヨシヤンマ
アオヤンマ
エサキアメンボ
コオイムシ
イグチケブカゴミムシ
ハマベゴミムシ
キベリクロヒメゲンゴロウ
シマゲンゴロウ
ヤマトモンシデムシ
オオルリハムシ
ムツボシベッコウ
フタモンベッコウ
クロマルハナバチ
ハイイロボクトウ
ギンイチモンジセセリ
オオムラサキ
スゲドクガ
マエアカヒトリ
ヤネホソバ
コシロシタバ
カギモンハナオイアツバ
ウスミモンキリガ
キシタアツバ
ミスジキリガ

●情報不足 (DD)

ウスバカマキリ
オオサカアオゴミムシ
クビナガキベリアオゴミムシ
クビナガヨツボシゴミムシ
コガムシ
オオツノハネカクシ
ダルママグソコガネ

ホシアシブトハバチ
スダセイボウ
ヤマトアシナガバチ
モンズズメバチ
カラトイスカバチ
クズハキリバチ
カエルキンバエ

ヒヌマイトトンボ

絶滅危惧の度合い:絶滅危惧1B類

市内の生息地:江戸川河川敷

ヒヌマイトトンボは、海の影響を受ける密生したヨシ原に生息するトンボです。そういう場所は人の生活や経済活動の影響を受けやすく、全国で生息地が減少し、一方で保護の取り組みも進められています。

市川市域では江戸川河川敷のヨシ原に生息し、市川市の文化財（天然記念物）に指定され、保護されています。

江戸川の生息地では、国土交通省により生息環境の保全や造成、個体増殖の取り組みが長年にわたって行われました（「市川市史自然編」をご参照ください）。その結果、現在は安定した個体群が維持されています。



ヒヌマイトトンボ (オス)

2021年7月9日撮影 江戸川

キイロホソゴミムシ

絶滅危惧の度合い:絶滅危惧1B類

市内の生息地:江戸川放水路

ギョウトクコミズギワゴミムシ

絶滅危惧の度合い:絶滅危惧2類

市内の生息地:江戸川放水路

ハマベゴミムシ

絶滅危惧の度合い:準絶滅危惧

市内の生息地:江戸川放水路

いずれも海岸性ゴミムシと呼ばれる昆虫です。海岸や河口の海水の影響を受ける場所に限って生息します。当館は詳しくないので、研究者のかたが「市川市史自然編 (P283-287)」に書かれた内容を参考に紹介します。

上記3種のゴミムシ類は、古い記録のほか、2000年以降にも江戸川放水路で確認されています。キイロホソゴミムシは2007年、ギョウトクコミズギワゴミムシも2007年、ハマベゴミムシは2011年に確認されています。干潟や、干潟に続くヨシ原に生息し、ヨシが枯れて積み重なった下や、流れ着いて積み重なった枯れた植物の下で暮らしています。

江戸川放水路は東京湾に残る貴重な干潟として知られていますが、3種類の海岸性ゴミムシも江戸川放水路でかろうじて生き残ったと思われます。ただ、江戸川放

水路のヨシ原は規模が小さく、大小の改修工事や土砂の堆積などによって環境が変化する恐れがあります。見た目は同じヨシ原に見えても、ヨシ原内の環境がいつの間にか変わり、生息する生物が入れ替わってしまうリスクをはらんでいます。江戸川放水路の生物の保全では魚類のトビハゼがよく知られていますが、海岸性ゴミムシについても継続的な取り組みが必要です。

なお、ギョウトクコミズギワゴミムシという種名の「ギョウトク」は「行徳」です。駅名や学校名だけでなく、生き物の名前にも行徳の名が残っているわけです。また、「市川市史自然編 (P283-287)」ではこれら3種のほかに、市川市東浜で確認されたヒョウタンゴミムシ、江戸川放水路に生息するハマベミズギワゴミムシ、近年の記録が無いことが懸念されるムツモンコミズギワゴミムシも、海岸性ゴミムシとして紹介されています。

コオイムシ

絶滅危惧の度合い:準絶滅危惧

市内の生息地:長田谷津

長田谷津では継続的に観察できています。水生昆虫ですが、水というよりも泥地に近い環境の方が適しているようです。

「環境省レッドリスト2020」からの抽出手順

- ①. 基本的な手順は4-5月号で紹介した通り
- ②. ただし、「環境省レッドリスト」では昆虫の種名の前に「トンボ目」「コウチュウ目」のように分類上の「目(もく)」の名称が付され、また、「目」という文字の次に半角の空白が挟まれているので、エクセルの置換機能を使い、置換前の文字列を「*目 」(目の次に半角スペースを入れる)、置換後に何も指定せず置換を実行する。〇〇目の部分が削除され、種名だけのセルにすることができる。
- ③. 「環境省レッドリスト」のPDFファイルをワード→エクセルと移すなかで、どうしてもエクセルのセルにならない部分があるので、そこは手作業で修正する。また、市史リストには種名の重複があるので注意!

いちかわの植物 30年

自然博物館の30年あまりの活動で得られた写真を用いて
市川市域の植物を紹介します。

ノカラムツ、フジバカマ

江戸川と坂川が合流する一帯には古くから珍しい野草が生えていたと教えられ、何度も訪れました。ヒキノカサやエキサイゼリを見つけたかったのですが、それらは見つかりませんでした。代わりに出会ったのがノカラムツやフジバカマで、どちらも葉っぱしかない時に教えてもらい、花に出会えるのを心待ちにしていた記憶があります。高山植物ばかり見ていた身にはどちらの花も珍しく、そこが素晴らしい場所だということ深く認識しました。

30年前は河川敷に小さな土手があり、そのまわりに家庭菜園や釣り堀があり、ネギ畑とヨシ原があり、一時、土を積み上げた山もありました。ノウルシ、サクラタデ、ニガクサなど出会い、カントウタンポポにも確実に出会えるポイントでした。サクラタデはおそらく姿を消してしまいました。写真を撮らなかったことをとても後悔しています。

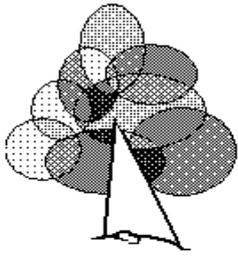
その後、堤防工事の際に失われてしまうフジバカマの株を里親さんに預け、工事後に現地に戻したこともありました。堤防やサイクリングロードができてすっかり様変わりしましたが、この場所に貴重な自然が残されていることは変わりありません。単なる「未利用地」ではないことが広く理解されることを願います。



ノカラムツ(1986年7月21日)
国府台3丁目 江戸川と坂川の合流地帯
は湿った原野の雰囲気だった。



フジバカマ(1986年9月22日)
国府台3丁目 土手の日当たりのいい斜面
に多くの株があった。



ハスの花とご近所の動物

「千葉公園の大賀ハスがみごろです」とニュースがあり、6月23日に見に行きました。ピンクのきれいな花でした。

「2000年前の泥炭層の中にあつたハスの種から花が咲いた」という事を小さい頃知り、すごいなと思いました。蓮根を買う時、芽がついているのを買ったり、種から育てましたが、夏に水が熱くなったり、冬には凍らせてしまったり失敗しました。種は堅く、コンクリートで少し中身が見えるぐらいゴリゴリ擦るのです。今年、「チャワンハス」という葉が出ているのを手に入れました。いま、2つの蕾が葉より伸びつつあります。

5月の夜中、「ケケケケ…」と聞きなれない鳴き声を聞きました。「ご近所にタヌキもいることだし」と防犯カメラの録画を見ました。映っていた動物はハクビシンだそうです。北方3丁目の友人宅付近でも、庭先の桃を食べにハクビシンが来るそうです。菅野では親子のハクビシンが、市川郵便局近くの空き家にはタヌキ3匹住んでいるそうです。姿を見たり、声を聞いたりしなければ、いろいろな動物の存在に気が付かずに、人間は暮しているのかも。

(M.M.)

No.39

展示室 飼育生物の話題

今年のイモムシ

今年も、卵やイモムシをもらったり捕まえたりして展示しました。エゾヨツメ、オオミズアオ、キバラケンモン、トビイロトラガ、クチバスズメ（写真のイモムシ）、フクラスズメ、マイマイガ、アゲハ、オオムラサキです。

苦手なお客さんがいる一方で、イモムシのファンも結構います。怖いもの見たさ、という人もいます。反応はいろいろですが、短期間で、蛹、成虫と変わっていくイモムシは、継続観察に適した素材と考えています。また、形態の多様さにも目を見張ります。イモムシという基本形を堅持しているにもかかわらず、どれも違って見えるところが楽しいです。生物多様性という、とってつけたような言葉よりも説得力があります。



わたしの 観察ノート

●長田谷津より

- ・昨日鳴き声を確認したサンショウクイを、三角池の横の斜面林で観察しました(5/3)。樹冠をヒリリヒリリと鳴きながら移動していました。青空をバックで見るサンショウクイはとても綺麗でした。
- ・朝から雨模様の天気でした。三角池では雨を待ちわびていたアズマヒキガエルの子ガエルが上陸をしていました(5/13)。
- ・子ダヌキを観察しました(6/9)。全部で6頭いるようで、巣穴になっているパイプの入り口付近でじゃれあっていました。人が少なくなると親ダヌキもパイプから出てきました。
- ・夕方、クリの花にアカシジミが来ていました(6/9)。ミドリシジミと一緒にクリの花の蜜を吸っていました。

以上 稲村優一(自然博物館)

- ・昨年、草刈りの時に印をつけ忘れて刈ってしまったオオマルバノホロシが、今年はよく伸びて早くも花を咲かせていました(6/1)。
- ・湧水の流れの砂底にオニヤンマのヤゴがいました(6/30)。自然観察の小学生が見つけました。羽化も見られました。

以上 金子謙一(自然博物館)

◆博物館周辺より

- ・博物館のすぐ横にあるサクラの木にサクランボが実っています。ハシブトガラスの群れがサクランボを食べにやってきました(5/13)。枝ごと折っておいしい実だけ食べていました。木の下にはカラスが捨てた、まだ熟していないサクランボがたくさん落ちていました。

- ・5月に入った頃から博物館の3階の屋外展示場でハクセキレイの番(つがい)を見かけることが多く、もしかしたら近くで巣を作っているのかなと期待をしていました。屋外展示場で作業をしていたところ、親鳥の餌運びと雛の声を聞くことができました(5/28)。巣はこちらから見えない場所にあり、おそらく屋根の隙間だと思われます。よい場所に巣を作ったようでした。雛が巣立つのが楽しみです。

以上 稲村優一

◆じゅん菜池緑地より

- ・じゅん菜池緑地の奥にハンゲショウが群生している場所があります。ちょうど花の時期で、花序の近くの葉が白くなっていました(6/29)。曇り空の下だと、白が美しく見えます。

●江戸川放水路より

- ・干潟では今年もトビハゼの姿を確認できました(6/8)。巣穴もありましたが、数はまだ少なく、トビハゼも隠れ場所のヨシ原周辺に多く見られました。

以上 金子謙一

- ・潮が引いた干潟ではヤマトオサガニの姿が目立ちました(6/8)。水中から目だけ出して周りを探っていました。
- ・チュウシャクシギの群れに混じってオオソリハシシギが1羽いました(6/23)。オオソリハシシギがこの時期にいるのは非常に稀です。東京湾で越夏するのでしょうか。

以上 稲村優一

梅雨入りは6月14日頃、よく雨が降りました。梅雨明けは7月16日頃、明けると陽射しが強い酷暑が待っていました。

自然博物館のwebサイト（ホームページ）を 調べ学習や事前学習にご活用ください

自然博物館のwebサイト（ホームページ）では、つぎのような素材（コンテンツ）をご用意しています。

○ オリジナル動画

- ・グリーンスクールで訪れる大町公園の自然観察園（長田谷津）について、毎月の風景や動植物を動画で紹介しています。
- ・同じく長田谷津について、タヌキやノウサギ、オオタカなど、一般の観察では見られない動物の生態を、センサーカメラで記録した動画で紹介しています。
- ・展示や、学校への出張授業で用いた教育普及用動画が見られ、順次増やしていきます。

○ 自然観察週報

自然博物館の学芸員の観察記録です。1998年からのデータを1年ごとにエクセルのファイルで提供しています。すべて市川市内の情報なので、子どもたちのタブレットにダウンロードして調べたい生き物を種名で絞り込んだり、長田谷津や江戸川放水路など場所で絞り込んだりすることができます。たとえば野鳥の「カシラダカ」で絞り込むと、長田谷津では2011年を最後に記録がありません。その原因をテーマに調べ学習を発展させるのもおもしろいと思います。

○ 自然博物館だより

自然博物館が隔月で発行している読み物です。市川市内の自然の話題を取り上げているほか、分類学や生態学の立場で自然や生き物を解説した記事もあります。最新号および創刊号までのバックナンバーをPDF形式のファイルで提供しています（ダウンロードできます。古い号は準備中です）。自然博物館が発行したものですから、書かれている内容についてお問い合わせいただくことも可能です。記事について子どもたちとメールでやりとりできれば楽しそうです。

○ デジタル展示室

過去の企画展のパネルなどをご覧いただけます。今後、調べ学習に使いやすいように内容を更新していきます。

第34巻 第3号（通巻第195号）
令和3年8月1日 発行
編集・発行/市立市川自然博物館
（市川市教育委員会生涯学習部）
〒272-0801千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477